

策定の背景と役割

【策定の背景】

中目黒駅周辺地区では、昭和63年に整備構想を策定しましたが、その後、上目黒一丁目及び二丁目市街地再開発事業や環状6号線の拡幅整備事業が進められ、平成24年度には副都心線と東急東横線との相互乗り入れが予定されるなど、中目黒駅周辺地区は商業・業務・居住などの都市機能が集積する広域生活拠点として今後大きく変化することが想定されます。

一方、土地利用においても工業系地域や住宅系地域に小規模な商業・業務施設の集積が進んでいます。

こうした状況を踏まえ、新たな土地利用などの変化に対応するため、整備構想を改定することになりました。

改定にあたっては、中目黒駅周辺地区の将来の街づくりを考えるため、地域住民が主体となった「中目黒駅周辺地区整備構想懇談会」が平成21年11月に発足し、地区の現状から課題等を抽出し、街づくりの目標や地区の将来像等について検討を進めながら、整備構想をまとめました。

今後、目黒区では、この「地区整備構想」を皆で共有し、地元住民、関係機関等と連携・協力しながら、中目黒駅周辺地区の「目指す将来像」の実現に向けた街づくりを進めていきます。

なお「地区整備構想」の内容は、福祉、教育、産業振興などの幅広い分野の施策と密接に関係しており、関連する分野も出来る限り取り入れています。直接の対象とするのは、土地利用や道路・公園などの地区施設に関することとなります。

【役割】

- 地域の現状を把握し、新たな土地利用などの変化に対応できる内容として、今後取り組むべき街づくりの基本的な方向性を示しています。
- 地区の将来像を定め、目標や方針に基づいて具体的な取り組みができるように計画の体系化を図っていきます。
- 地域間のつながりを深めるため、街づくりに関わる様々な人たちが意見交換・交流する場を設け、地域コミュニティを活発にして街づくりを効果的に進めていけるようにしていきます。

【目標年次】

中目黒駅周辺地区整備構想の目標年次は概ね10年後とします。

なお、社会情勢や計画の進捗状況に合わせて、必要に応じて見直しをしていきます。